令和元年度　事業報告

学校法人　九州電気専門学校

1．法人の概要

(1) 建学の精神（教育指針）

① 電気技術教育を通じ国家社会の進展と人類の福祉に貢献する。
② 誠実明朗な人格の形成に努め責任を重んずる有能な技術者を養成する。
③ 勤労しつつ電気技術の習得を志す者に勉学の場を設け、地域社会に寄与する。

(2) 学校法人の沿革

○　大正12年、当時の九州帝国大学、九州財界や官界の諸先生が、将来の電気技術者の不足を憂い、向学心に燃える勤労青年を教育し、質実剛健で有意な人材を育てることを目的に、夜学として創設した。

○　戦争混乱期等、学校経営上厳しい時期もあったが、昭和30年代後半には福岡商工会議所会頭 佐藤篤二郎翁を理事長に迎え、時代の要請に応えるために青少年に魅力のある有国家資格の学校として尽力・再興、昭和51年には学校法人として現校名とし、現在地に校舎を新設した。

○　昭和50年代には電気主任技術者認定校や電気工事士養成施設指定校となるとともに、昭和57年には全日制の設置、平成7年には専門士称号認定等、様々な発展と歴史を辿り、96年の星霜を踏まえ、7,000人を超す卒業生を世に送り出してきた。

(3) 設置する学科

（表1）

課　程	学　科	昼・夜間の別	摘　要
電気工学専門課程	電気工学科	全日制	
		定時制	
	情報通信工学科	全日制	平成18年4月募集停止
電気工学一般課程	電気工事士科	全日制	
		定時制	

(4) 学科等の学生数の状況

（表2）　　（令和元年5月1日現在）

学科名		クラス	入学定員	総定員	現員数	摘要
電気工学科	全日制	2	100	200	71	
	定時制	2	50	100	25(3)	
情報通信工学科	全日制	2	40	80	―	募集停止中
電気工事士科	全日制	1	40	40	9	
	定時制	1	50	50	7	
				（計）	**112**(3)	(　)休学者内数

(5) **役員の概要**　（令和元年7月末日現在）

（表3）　［定員数］ 理事7名　監事2名

区分	氏名	理事選任条項
理事長	梨田　一海	3号(学識経験者)
理事	渡辺　征夫	1号(校長):1名
	中原　道隆	2号(評議員)
	藤井　一郎	3号(学識経験者) :計4名
	廣渡　健	
	柴田　典顕	
	八尋　茂	2号(評議員) :計2名
監事	堤　　克彦	—
	漆間　道宏	

(6) **評議員の概要**　（令和元年7月末日現在）

（表4）　［定員数］ 19名

氏名	評議員選任条項
渡辺　征夫	1号(校長):1名
中原　道隆	2号(職員)
岡田　龍雄	4号(学識経験者) :9名
福重　康行	
岡松　宏治	
平田　宗充	
大島　洋	
小野　利喜	
宮崎　昌英	
近藤　勲	
吉田　純一	
八尋　茂	3号(卒業生) :5名
近藤　盛弘	
吉松　信幸	
内田　宗喜	
山科　光男	
福井　文彦	2号(職員) :計4名
佐藤　博	
徳永　洋一	

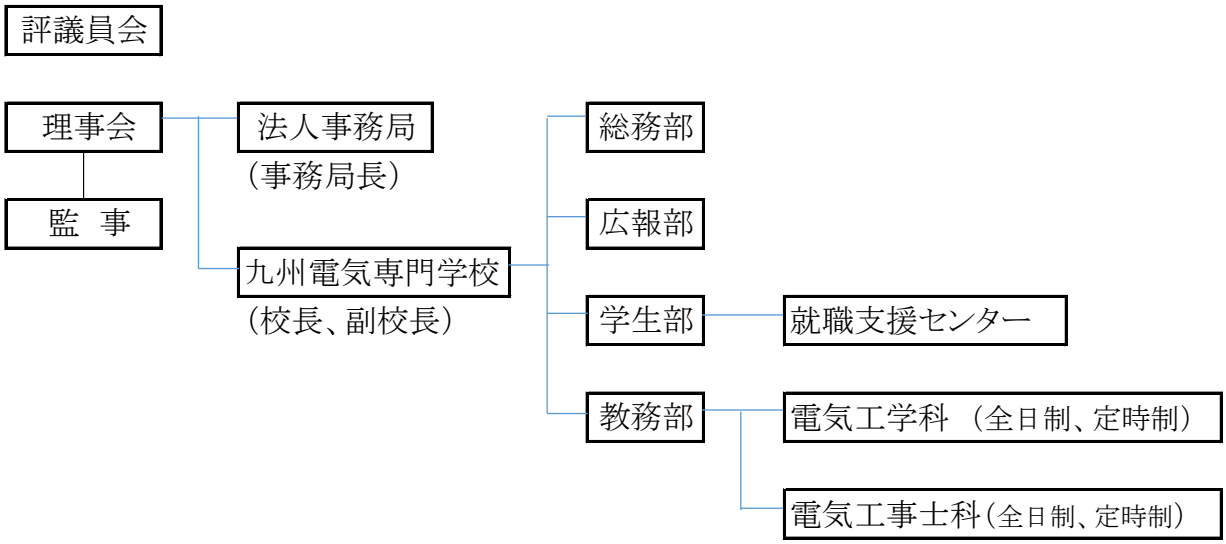
(7) 教職員の概要　（令和元年5月1日現在）

（表5）

教 員	常　勤	9名	校長、副校長、電気工学科（5注1）、電気工事士（2）
	非常勤	36名	電気工学科（29注2）、電気工事士科（7）
職 員	常　勤	4名	総務部長、広報部長、職員2名（女性）

（注）1. 常勤教員の電気工学科5名には、学生部長を含む
2. 九大院生8名を含む
3. 別にパート職員3名が在籍

(8) 組織図



(9) 施設等の状況

① 主な現有施設設備の所在地等の説明

（表6）　　（千円）

所在地	施設等		取得価額	帳簿価額	摘　要
福岡市博多区 住吉四丁目 4番5号	校地		252,498	252,498	S50.11取得
	建物		293,881	140,063	
	本館	2,053	184,380	69,818	S51.8竣工、S58.3増設
	別館	765	99,252	59,263	S62.4竣工、H6.4・H7.4増設
	渡廊下	17	10,249	6,485	H7.8竣工

２. 事業の概要

わが国においては基調的に少子化や若者の電気離れの傾向にあり、また平成20年代中頃からは経済情勢の持ち直しや企業の人手不足等により、近年においては入学者が60名前後に低迷し、大変厳しい学校運営を余儀なくされてきた。

このような状況下、令和元年度は経営の安定を目指して、経費節減の推進や種々の収益確保施策の検討はもとより、一段の入学者増加対策に全校一丸となって取り組んだ。
しかし、資格取得へのニーズはあるものの、学生数への大きな伸びには繋がらずR2/4入学者は61名と昨年と同様低迷した。

一方、本校の就職面においては良好な状況が続いており、R2/3卒業者の就職内定率は98%となった。電気技術者や電気主任技術者等の全国的な有資格者の不足が現実的となっており、即戦力となる人材の養成を目指す本校での就学や就職面での有利性について、社会の認識が新たとなる契機ともなっている。

また、国の教育を取り巻く環境としては、近年、専修学校の質保証・向上に向けた評価制度が導入され、当校においても自己評価及び学校関係者の評価を行った。
さらに、職業大学・短期大学が制度化されるなど実学教育が指向され、少子化への対応策としての修学支援新制度も制定され、当校もその認定校となった。

以上のような情勢において、経済産業省による認定校及び指定校として、当校が令和元年度に取組んだ主な内容と結果を次ページ以下に示す。

なお、来春についても企業の採用意欲はなお高く、また、18歳人口も今後減少（2018年問題）に向かうことから、令和2年度についても、なお一層の学校経営の安定化施策や100周年記念事業の募金活動等に積極的に取組んでいく。

(1) 業務関係

① 奨学金貸与状況（表7）

o 令和元年度の日本学生支援機構奨学金は、期末在籍者93名(電気工学科)のうち、受給者27名(受給率29%)であり、昨年より減少した。受給者は全日制の学生であり、種別では有利息の第2種受給者、採用区分では予約での採用が多い。

（表7）令和元年度の日本学生支援機構奨学金 貸与状況（電気工学科 昼・夜）

	在籍者	貸与状況（年度末）				休辞退者	(B/A)	採用区分		
	期末 (A)	1種	2種	1・2種	計(B)	(年度内)		予約	在学	予・在
1年次	44(1)	1	8	1	10	(0)	23%	4	6	0
2年次	49(0)	7	9	1	17	(0)	35%	11	6	0
計	**93**(1)	8	17	2	27	(0)	29%	15	12	0
H30年度	95(3)	10	21	1	32	(1)	34%	20	12	0

（注）在籍者（ ）内は休学者で内数

② 休学・退学者の状況（表8）

o 学力に幅がある学生に対し、能力別クラス分けや個別指導等キメ細かな指導教育を行い、また、本人の生活面の指導も含め家庭との密な連携等を行ったものの、経済面等の個別事情もあり、休・退学者は 6名（5.4%）となり昨年とほぼ同じであった。

（表8）在籍者と休学、退学者等の年度別推移

	H27	H28	H29	H30	R1
期首在籍者（a）	130	111	127(2)	107(4)	**112**(3)
（期中休学者）	(0)	(3)	(3)	(1)	(1)
退学・除籍者	6	8	6《1》	5《4》	6《2》
期末在籍者	124	103(3)	121(4)	102(1)	106(3)
[休・退学、除籍者](b)	6	11	10	6	**6**
(b)/(a)	4.6%	9.9%	7.9%	5.6%	**5.4%**

（注）1．在籍者の（ ）内は休学者で内数

2．《 》内は休学者が期中に退学・除籍した者で内数

③ 電気主任技術者（第三種）受験対策講座を開設・募集開始。

o 実力養成講座（火・木曜日夜、5～7月）と直前対策講座（週末4日間、8月）を開設。

o 実力養成講座は受講者が集まらず未実施。

o直前対策講座は、一般の受講者及び在校生を含め13名受講。

④ 電気工学科定時制の専門士申請

o 電気工学科(定時制)の単位を見直し（2科目4単位増）県に申請（10月）。

o R2年2月認定され、4月学則変更届提出。

⑤ 修学支援新制度の申請

o 少子化対策として授業料免除及び給付型奨学金の支給制度開始(R2.4.1)。

o当校も R1年7月 申請し、9月 認定校となった。

⑥ 学校創立100周年(令和5年、2023年5月)記念事業の実施事項決定。

o 募金(1.5億円)に向けた準備及び募金活動の活動開始。

o 実践的かつ高度な電気工事技術を学ぶ新学科(2年コース)の開設等の検討実施。

⑦ 収益力向上諸施策の検討

o 短・中期的或いは長期的に対応すべき経営課題と対策の検討。

o 空き教室の恒常的貸出しや組織・制度面の検討など。

(2) 広報関係

学校説明会(右頁参照)や高等学校訪問活動、ガイダンスへの参加などを実施。福岡県電気工事業2組合や同18支部訪問に力を入れた。

また、ホームページを充実してパソコン・タブレット・スマートフォンからの検索による個人との接点を増加させるとともに、学校案内パンフレット類や卒業生の「就職内定者KEC便り」の送付あるいは高校向けの「学校PR版」掲示依頼等により高等学校との連携を深めた。

① 令和2年4月入学者数 (表9、添付資料)

o 入学者は61名となり昨年と同数で、目標の80名には19名未達となった。

o 電気工学科(全日制)が、昨年の34名から6名減の28名へと3年連続減少した。

o 電気工事士科は、昨年の15名から8名増の23名へとなった。

(表9) 入学者数の推移

			H28	H29	H30	R1	R2
電気工学科	全日制	100	41	43	38	34	**28**
	定時制	50	18	6	14	12	**10**
	(小計)		(59)	(49)	(52)	(46)	**(38)**
電気工事士科	全日制	40	9	13	4	8	**14**
	定時制	50	7	8	2	7	**9**
	(小計)		(16)	(21)	(6)	(15)	**(23)**
合 計		240	75	70	58	61	**61**
	対前年差		＋24	－ 5	−12	＋3	**±0**

入学者目標 80 名

［ 学校説明会参加状況等 ］

o 学校説明会の参加者は100名（昨年も100名）。
そのうち、入学者は46名（46％名）であり、昨年48名（48％）とほぼ同等。（表10）

o 入学者61名のうちの学説参加者の割合は75％（46名）であり、昨年79％（48名）とほぼ同等。（表10）

o 本校を知ったきっかけは、ホームページを通じてが58％と最も多く、昨年の46％から大きく伸びた。2番目は例年通り家族・友人・知人からの紹介が28％であった。
（入学者アンケート結果、表11）

（表10）入学者と学校説明会参加者との関係

	H30	H31	R2
全体入学者(A)	58	61	**61**
学説参加者(B)	94	100	**100**
うち入学者（C）	46	48	**46**
（C)/(A)	79%	79%	**75%**
（C)/(B)	49%	48%	**46%**

＊今回入学者61名のうち3名はH30年度の学校説明会に参加（46名に含まず）

（表11）本校を知ったきっかけ（要因構成）　（%）

	H30	H31	R2
ホームページ	62	46	**58**
家族・友人・知人	16	39	**28**
本校の関係者	8	7	4
母校の先生	8	4	4
進学情報誌	5	2	3
その他	1	2	3
計	100	100%	100%

② 入学者（R2.4）の特徴

ア．学科別・出身高校分野別及び年齢別、新・既卒別内訳

o 普通科高校出身者は30名（49％）で、昨年の34名から4名減。（表13）
工業高校の電気系出身者は15名(昨年から4名増)、また、商業他は7名(昨年から4名減)。

o 高校新卒者は33名（54％）と6名増加した。（昨年は27名（44％））（表12）
普通科出身者30名のうち新卒者が17名と半数を超えた。（昨年は34名のうち11名）

o 年齢別では、31歳以上が9名(15％)と、昨年の7名(11％)から若干増加した。（表14）
最年長者64才（昨年35才：電気工事士科）で、31歳以上はいずれも定時制。

o 女性は2名（電気工学科全日制1名、定時制1名）、留学生は1名（韓国)であった。
昨年は女性0、留学生は2名（ブータン）。

（表12）学科別・出身高校分野別及び新・既卒別入学状況

		入学者数	工業高校 電気系	工業高校 その他	普通	商業他
電気工学科	全日制	28	10	5	10	3
	定時制	10	3	1	5	1
	(小計)	(38)	(13)	(6)	(15)	(4)
電気工事士科	全日制	14	0	0	12	2
	定時制	9	2	3	3	1
	(小計)	(23)	(2)	(3)	(15)	(3)
合　計		**61**	**15**	**9**	**30**	**7**
	[構成比]	[100%]	[25%]	[15%]	[49%]	[11%]
(内訳)	新卒	**33**	**8**	**4**	**17**	**4**
	既卒	28	7	5	13	3

（年齢別内訳）

～18	19～24	25～30	31才以上
18	9	1	0
2	2	2	4
(20)	(11)	(3)	(4)
10	3	1	0
1	1	2	5
(11)	(4)	(3)	(5)
31	**15**	**6**	**9**
[51%]	[25%]	[10%]	[15%]

（表13）出身高校分野別入学者の推移

		H30	H31	R2
工業	電気系	(28) 16	(18) 11	(25) **15**
	その他	(10) 6	(8) 5	(15) **9**
普通		(53) 31	(56) 34	(49) **30**
商業他		(9) 5	(18) 11	(11) **7**
計		(100) 58	(100) 61	(100) **61**

注（　）内は構成比（％）

（表14）年齢別入学者の推移

		H30	H31	R2
～18才		(48) 28	(46) 28	(51) **31**
19才以上計	19～24才	(28) 16	(33) 20	(24) **15**
	25～30才	(5) 3	(10) 6	(10) **6**
	31才以上	(19) 11	(11) 7	(15) **9**
		(52) 30	(54) 33	(49) **30**
計		(100) 58	(100) 61	(100) **61**

イ. 出身地域別及び既卒者の学歴等内訳

o 福岡県出身は29名で昨年より10名減。福岡県以外の九州出身は5名増の24名
九州域外の入学者は8名。(留学生1(韓国)、沖縄2、山口2、徳島1、大阪1、滋賀1)(表15)

o 新卒者33名のうち福岡県出身は1名減、九州その他3名増、九州域外4名増であった。(表16)

o既卒者28名のうち、福岡県出身は9名減だが、九州その他2名増、九州域外1名増であった。
また 既卒者13名は大学等卒業或いは中退者。(大学卒業4、同中退4、専門学校卒5名)(表17)

o 定時制クラス19名のうちほとんどが既卒者(17名)であり、これまでとほぼ同じ傾向。
このうち勤務継続者は5名。(表17)

(表15) 出身地域別入学者の推移

		H30	H31	R2
九州	福岡県	(67) 39	(64) 39	(48) **29**
	その他	(26) 15	(31) 19	(39) **24**
九州域外		(7) 4	(5) 3	(13) **8**
計		(100) 58	(100) 61	(100) **61**

注(　)内は構成比(%)

(表16)出身地域別、高校新既卒別入学者

		新卒	既卒	計
九州	福岡県	(52) 15	(48) 14	(100) 29
	その他	(58) 14	(42) 10	(100) 24
九州域外		(50) 4	(50) 4	(100) 8
計		(54) 33	(46) 28	(100) **61**
H31.4入学者		(44) 27	(56) 34	(100) 61

(表17) 既卒者の学歴、勤務状況

		入学者数	既卒 新卒	既卒 既卒	既卒学歴(内数) 大学卒業	大学中退	専門卒業	計	勤務継続者
電気工学科	全日制	28	20	**8**	0	3	1	**4**	0
	定時制	**10**	**2**	**8**	2	1	2	**5**	3
	(小計)	(38)	(22)	**(16)**	(2)	(4)	(3)	**(9)**	(3)
電気工事士科	全日制	14	11	**3**	0	0	1	**1**	0
	定時制	**9**	**0**	**9**	2	0	1	**3**	2
	(小計)	(23)	(11)	**(12)**	(2)	(0)	(2)	**(4)**	(2)
合　計		61	33	**28**	4	4	5	**13**	5
H31.4入学者		61	27	34	7	4	4	15	9

(3) 教務関係

① 教育指導の充実

o 学生個々の適正や能力に応じた教育・指導の充実と学習環境の整備を図った。
・「数学」、「基礎講座」、「電気回路理論」を学生の能力に応じ2クラス編成。
・「オフィスアワー」(1,2年次前期毎週2時限)時に、学生の個別質問や相談に対応。

・成績や学習態度の良くない学生に対し、適宜、保護者を含めた三者面談を実施。
再試験や再実験を課す等、進級条件を厳しく運用した。

o 企業や社会の体験談講話を実施。(舞鶴会OB5名、(非)常勤講師の講話8回)

o 入学者の減少により、電気工学科(全日制)のクラス数は4年連続して、1年次、2年次とも1クラスとなった。

② 国家資格取得の推進 (表18、19)

o 在学中の国家資格取得を奨励し、「技術講座」科目は、学生毎の能力を考慮し国家資格別のクラス編成とし、効果的な授業を実施。

o 電気工事士(第一種・二種)受験対策講座への在校生の積極的受講を指導。

o 令和元年度合格者数
・電気主任技術者(第三種)は既卒者含め6名。
・電気工事士(第一種)に12名合格。

(表18) 国家試験合格者の年度別推移 (人)

		H27	H28	H29	H30	R1
電気主任技術者	第二種	0	0	0	(2) 0	0
	第三種	5 (7)	2 (4)	4 (5)	1 (2)	5 (6)
電気工事士	第一種	16	18	11	15	12

(注)1. 表中( )内は既卒者を含めた合格者数

(表19)電気主任技術者(第三種)の科目合格者数の推移(人)

	H27	H28	H29	H30	R1
1科目合格	5	4	5	4	3
2科目合格	2	2	2	3	1
3科目合格	3	1	0	2	3

(4) 令和元年度卒業生の就職等進路

o 卒業生60名のうち、49名が就職希望。内定率98%。(表20)
他の11名の進路は進学、既職、自営等。

o 就職希望者49名は昨年(48名)とほぼ同じ。一方、全国的に電気技術者が不足しており、当校への求人数は239社と、昨年から若干減少しているが、200社を超える求人有り。。
求人倍率は4.9倍(昨年は5.3倍)。(表21)

o 内定企業数は34社。なお昨年と同じ企業への内定は18社31名。(65%)(表22)
職種別では、建設関係が10社17名(35%)、サービス関係が13社17名(35%)。
九電(3名)や九電工(8名)並びにその関係の深い会社への内定者は14社25名(52%)。

(表20) 卒業生の進路

		卒業者	就職希望者(A)			他の進路内訳(B) (注)				
		(A+B)		内定(a)	未定者		進学	既職	自営等	その他
電気工学科	全日制	37	34	33	1	3	2	0	0	1
	定時制	8	3	3	0	5	0	1	3	1
	(小計)	45	37	36	1	8	2	1	3	2
電気工事士科	全日制	9	9	9	0	0	0	0	0	0
	定時制	6	3	3	0	3	0	2	1	0
	(小計)	15	12	12	0	3	0	2	1	0
合 計		**60**	**49**	**48**	1	**11**	**2**	**3**	**4**	**2**
	就職内定率(a/A)	**(48/49=) 98%**								

(注)その他・・・家事手伝い、資格取得等

(表21) 就職内定率等 年度別実績

	H27	H28	H29	H30	R1
就職内定率(B/A %)	100	100	98	100	**98**
就職希望者数(A)	76	42	59	48	**49**
就職内定者数(B)	76	42	58	48	**48**
求人社数(C)	193	215	227	252	**239**
求人倍率(C/A)	2.5	5.1	3.8	5.3	**4.9**

(表22) 内定者の職種別内訳 ( )内は内定企業数

	内定者数	内定者職種別内訳			
		建設	製造	サービス	その他
電気工学科	(25) 36	(5) 9	(9) 12	(11) 15	(0) 0
電気工事士科	(9) 12	(5) 8	(2) 2	(2) 2	(0) 0
計	**(34) 48**	**(10) 17**	**(11) 14**	**(13) 17**	(0) **0**

以 上